

このに聞く

暮らしに困っている人に食料を支援

暮らしに困っている人に食料を支援する「フードバンク」の活動が、全国に広がっている。県内でも今年1月、鯖江市に「フードバンクふくい」が発足。8月にNPO法人化し、活動を展開している。その取り組みについて、理事長の出雲晴夫さん(68)に聞いた。

—フードバンクはどのような活動ですか。
本来は捨てられるはずだった食品を、企業や個人から無償で引き取り、日々の暮らしに困っている人や団体に無償でお渡しする活動です。廃棄した食品を、企業や個人から無償に伴うエネルギーの発生や



「フードバンクふくい」理事長

出雲 晴夫さん (68)

環境への負担を軽減することにもつながり、社会的意義が大きい活動です。しかし、残念ながらあまり知られていないのが現状です。

—活動を始めたのは。
18歳未満の子どもの貧困率は、日本では1990年代半ば以降、上昇傾向にありま

す。厚生労働省の調査では、2012年段階で16・3%。6人に1人が貧困とされています。山形大の研究によると、福井県の貧困率(12年)は5・5%。全国で最も低い割合ですが、見過ごすわけにはいきません。そこで、食事を格安で提供する「ふくい子ども食堂」をレストラン経営者たちと開設するのに合わせ、1月からフードバンクを始めました。NPO法人化したことで、様々な公的な助成が受けられるようになりました。

—どこから食品の提供を受けているのですか。

—活動を広げていくためには何が必要ですか。
本当に困っている人たちはフードバンクの情報を入手するすべがありません。こちらのスタッフは5人。なかなか支援に手が回らないのが現状です。各地にネットワークを

農家や個人からの提供がほとんどです。「たくさん取れた」「出荷規格に合わなかった」と米や野菜、果物を届けていただいています。賞味期限が迫って店頭で並べられなくなったたり、家庭で消費しきれなくなったりした食品を提供してもらえると大変助かります。

—集まった食品はどこに配っていますか。
ふくい子ども食堂に参加している県内7軒のレストラン・バーベキュー場や、鯖江市の養護施設に配送しています。今後、ひとり親家庭や食事困っている人にも配っていきたいです。

—活動の提供や配送を手伝っていただける方をいかに増やしていくかが課題です。ホームページなどを通じて協力を呼びかけていきます。(聞き手・堀田浩二)

ふくい子ども食堂は、日曜、祝日に随時開かれています。レストランは18歳未満300円、大人500円、バーベキュー場は18歳未満500円、大人1千円。県内で活動に参加するのは次の7軒。

- 「王様の食卓 WEST」(鯖江市)
- 「旬彩ダイニング 王様の食卓」(越前市)
- 「ビストロ ぶらぶら」(越前町)
- 「バーベキュー嫁ケ茶屋」(敦賀市)
- 「お問い合わせは、ふくい子ども食堂事務局 (0778・42・8848)。

バードグリーンホテル(福井市)▽「ぶらぶら」

情報提供・配送人手が必要

いずも・はるお 1948年、福井市生まれ。生命保険会社員を経て、74年に福井市で旅行会社を創業。2006年から「福井の自然を体験実行委員会」委員長や県の「ふくいブランド大使」を務め、8月にNPO法人「フードバンクふくい」の理事長に就任した。